
**2014年3月期
第2四半期決算 及び 通期業績見通し
説明資料**

帝人株式会社
2013年11月1日

第2四半期決算概況

(1) 2014年3月期 第2四半期決算概況

(億円)

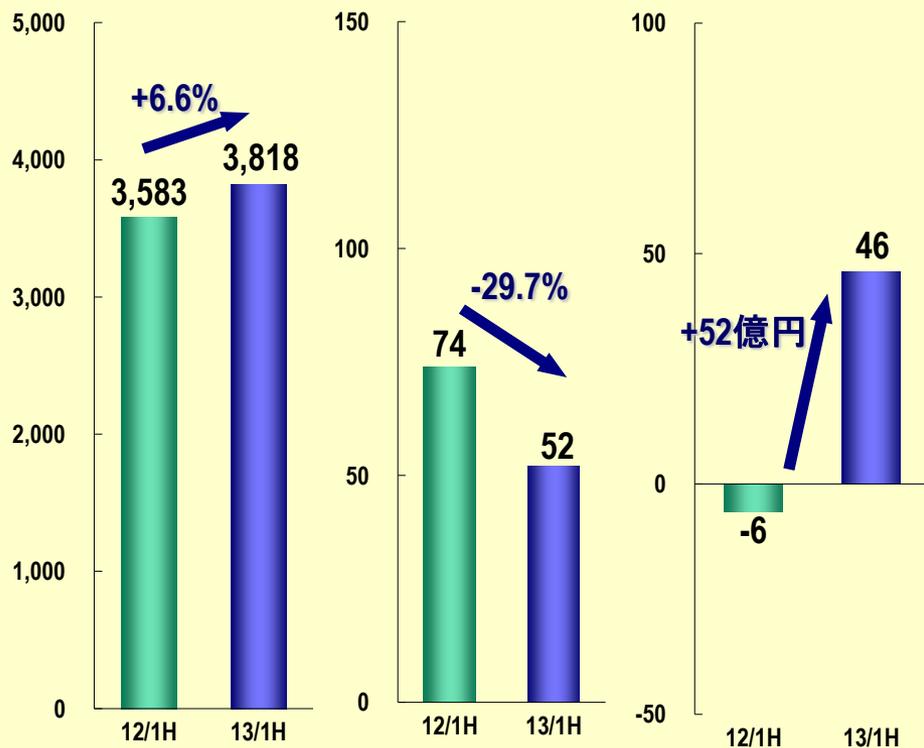
年度累計

(前年同期比)

売上高

営業利益

四半期純利益



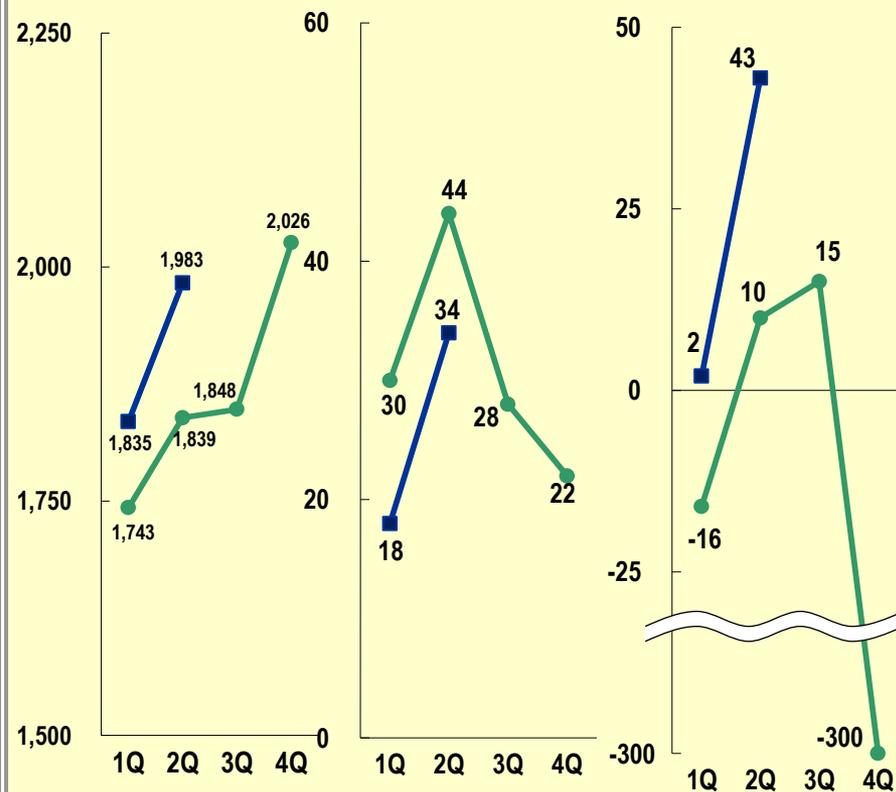
四半期推移

● 12年度 ■ 13年度

売上高

営業利益

四半期純利益



◆ 経営成績

(億円)	12年度 上期	13年度 上期	差異 金額
売上高	3,583	3,818	+235
営業利益	74	52	-22
<営業利益率>	2.1%	1.4%	-0.7%
営業外損益	-25	-11	+14
経常利益	49	41	-8
特別損益	-9	50	+59
税金等調整前 当期純利益	40	91	+51
法人税等	46	50	+4
少数株主損益	0	-4	-4
四半期純利益	-6	46	+52
EPS(円)	-0.60	4.65	+5.26

EBITDA *1	300	278	-22
設備投資 *2	165	142	-23
減価償却費	226	226	-0
研究開発費	157	159	+3
FCF	85	-273	-358

➤ 売上高 増収

- ・ 高機能繊維・複合材料事業を中心に増収

➤ 営業利益 減益

- ・ 電子材料・化成品事業の収益低迷

➤ 四半期純利益 改善

- ・ 特別損益 大幅改善
- ・ のれん償却費減少
⇒ 実効税率改善

◇ PL換算レート

	12年度 上期	13年度 上期
円 / 米ドル	79	99
円 / ユーロ	101	130
米ドル / ユーロ	1.27	1.32

*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出 *2: 設備投資には無形固定資産を含む

◆ 特別損益等

(億円)	12年度 上期	13年度 上期	差異 金額
固定資産売却益	8	2	-7
投資有価証券売却益	0	82	+82
その他	0	4	+4
特別利益計	9	88	+79
固定資産除売却損	4	5	+1
投資有価証券評価損	1	1	-0
減損損失	7	25	+19
洪水関連費用	3	—	-3
その他	2	6	+4
特別損失計	17	37	+20
特別損益計	-9	50	+59

法人税等	46	50	+4
少数株主損益	0	-4	-4

➤ 特別損益：59億円の改善

- ・ 投資有価証券売却益 82億円
- ・ 減損損失 25億円
(樹脂シンガポール1系列休止)

➤ 法人税等

税前利益 91億円



税効果を取れない赤字会社、
のれん償却費等の影響

⇒法人税等 50億円

四半期純利益 46億円

◆ 財政状態

(億円)	13年3月末	13年9月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,624	7,668	+44	+126
自己資本	2,713	2,752	+39	+47
有利子負債	2,708	2,923	+215	+59

D/Eレシオ	1.00	1.06	+0.06
自己資本比率	35.6%	35.9%	+0.3%

➤ 総資産 増加:

- ・為替換算影響大
- ・投資有価証券 増加
- ・現預金・売掛金 大幅減少
- ・たな卸資産 増加(季節要因)

➤ 有利子負債 増加:

- ・為替換算影響
- ・NET運転資本 増ほか

◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	営業活動	投資活動	FCF	財務活動他	現金及び 現金同等物 増減
13年度 9月期	32	-306	-273	133	-140
12年度 9月期	269	-184	85	-57	28

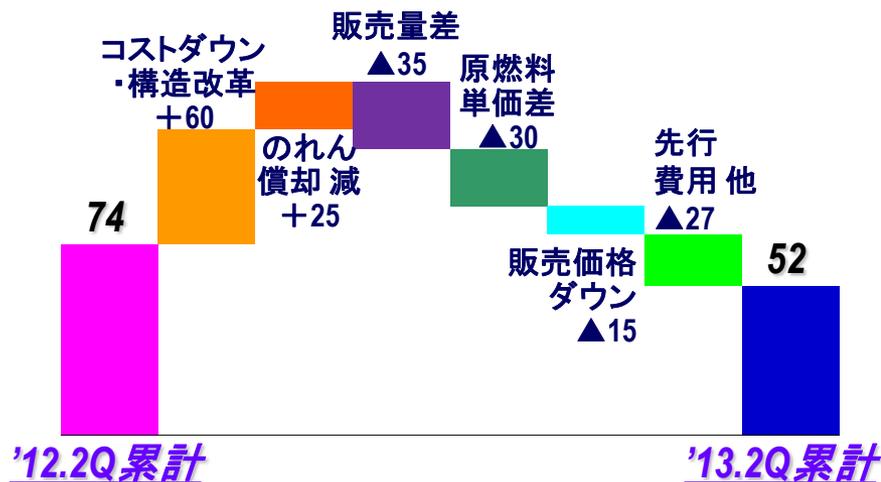
◇ BS換算レート

	13年 3月末	13年 9月末
円 / 米ドル	94	98
円/ユーロ	121	132
米ドル/ユーロ	1.28	1.35

◆ 経営成績及び財政状態増減内訳

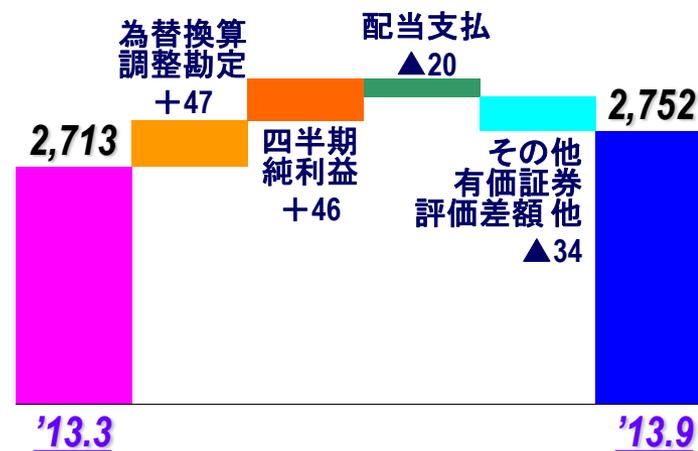
◇ 営業利益 (億円)

▲22億円



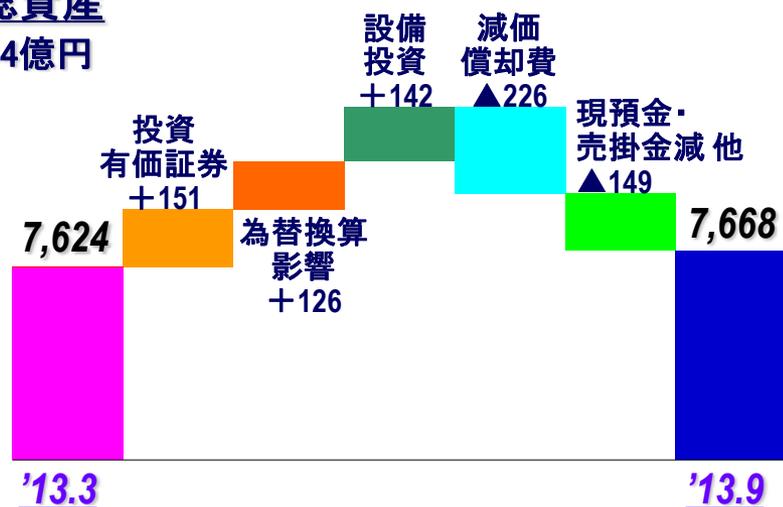
◇ 自己資本 (億円)

+39億円



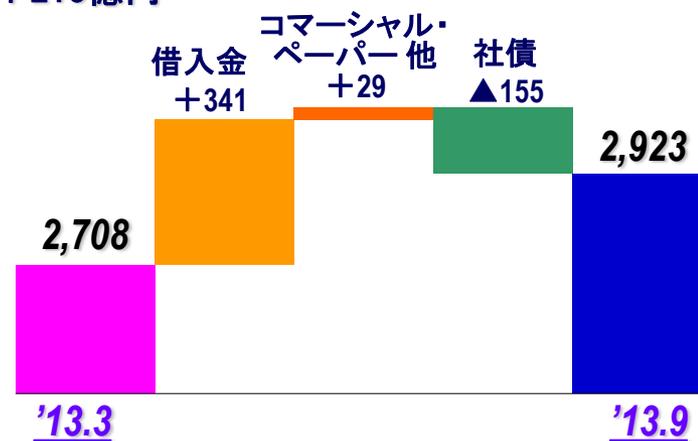
◇ 総資産 (億円)

+44億円



◇ 有利子負債 (億円)

+215億円



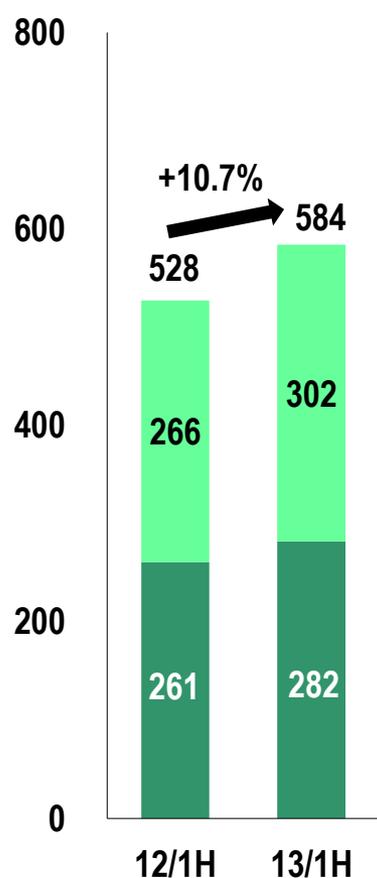
(2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	12年度 上期	13年度 上期	差異	増減率	12年度 上期	13年度 上期	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	528	584	+56	+10.7%	3	24	+21	+649.5%
電子材料・化成品	884	913	+29	+3.3%	15	-27	-41	—
ヘルスケア	643	648	+5	+0.8%	93	94	+1	+0.9%
製品	1,157	1,209	+52	+4.5%	22	23	+2	+8.8%
計	3,211	3,355	+143	+4.5%	132	114	-18	-13.7%
その他	371	463	+92	+24.9%	6	-3	-9	—
消去又は全社	—	—	—	—	-64	-59	+5	—
合計	3,583	3,818	+235	+6.6%	74	52	-22	-29.7%

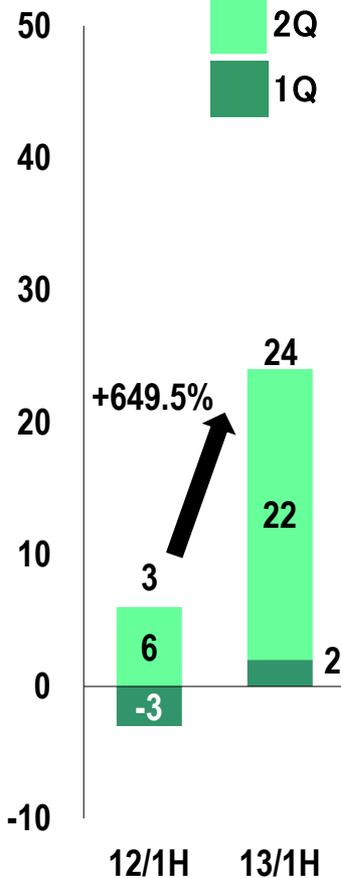
①高機能繊維・複合材料事業：アラミド繊維を中心に順調に回復

売上高

(億円)



営業利益



(億円)	12/1H	13/1H	差異	増減率
売上高	528	584	+56	+10.7%
営業利益	3	24	+21	+649.5%

◆事業概況

◇高機能繊維：

パラアラミド繊維：

- ・ 光ファイバー用途は堅調を維持、自動車関連用途は回復基調
- ・ 防弾・防護用途は低調に推移
- ・ オランダ拠点での合理化を推進

メタアラミド繊維：

- ・ 一部用途で競合激化も、主要用途の販売は堅調に推移

ポリエステル繊維：

- ・ 衛生材料、寝装用途の販売順調

◇炭素繊維・複合材料：

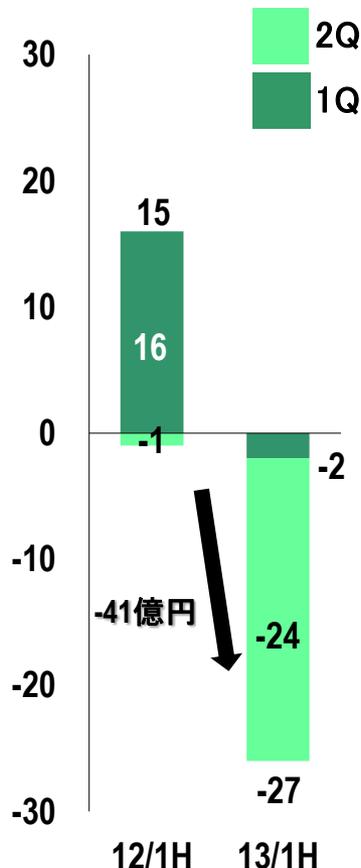
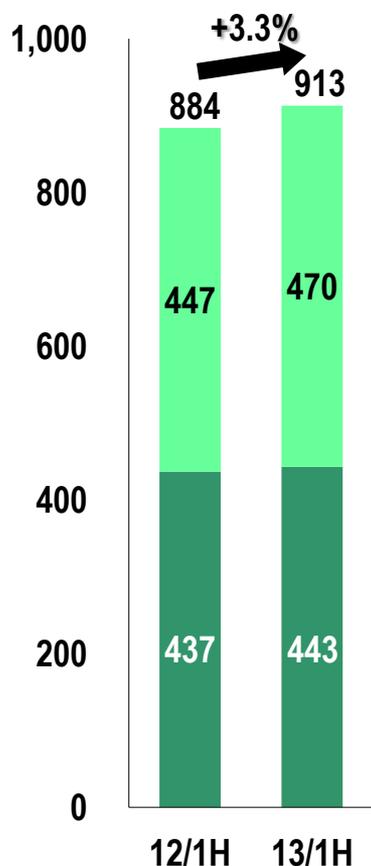
- ・ 航空機用途・圧力容器用途 堅調推移
- ・ 価格は下げ止まり、回復基調
- ・ 米国拠点の系列休止により生産効率改善
- ・ 熱可塑性CFRP展開加速 新ブランド「Sereebo」

②電子材料・化成品事業：需給低迷、競争激化により苦戦

売上高

営業利益

(億円)



(億円)	12/1H	13/1H	差異	増減率
売上高	884	913	+29	+3.3%
営業利益	15	-27	-41	-

◆事業概況

◇樹脂:

PC樹脂:

- ・需給が軟化する中で、柔軟な価格対応により販売量確保
- ・事務機器向け堅調も、パソコン・デジタルカメラ向け用途で市況低迷
- ・生産性の向上のため、シンガポール拠点の生産体制を再編を決定

特殊PC、樹脂加工品:

- ・カメラレンズ向け、シートが順調に推移

◇フィルム:

PET国内:

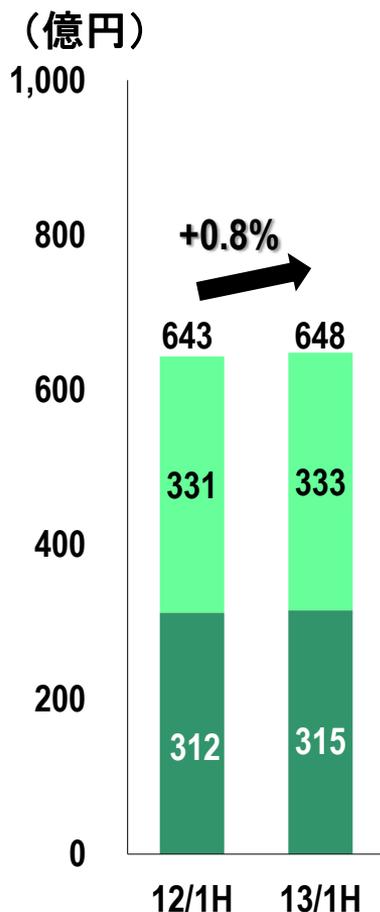
- ・液晶TV向けは新興国伸び悩み、低調推移
- ・スマートフォン・タブレット向け堅調

PEN国内: データストレージテープ 需要減退

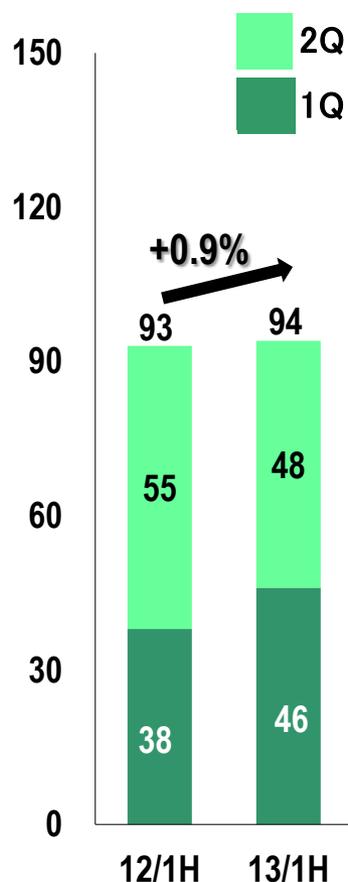
PET海外: 中国は収益維持も、欧米では苦戦

③ヘルスケア事業：高尿酸血症治療剤の販売は着実に伸長

売上高



営業利益



(億円)	12/1H	13/1H	差異	増減率
売上高	643	648	+5	+0.8%
営業利益	93	94	+1	+0.9%

◆事業概況

◇医薬品：

- 高尿酸血症治療剤「フェブキソスタット」
国内売上は着実に伸長、国内トップシェア確立
海外でも約30ヶ国で販売、順調に拡大中
- 骨粗鬆症治療剤「ボナロン*」
競争激化による厳しい事業環境は継続も、
点滴静注/ゼリータイプは着実に販売を拡大中

◇在宅医療：

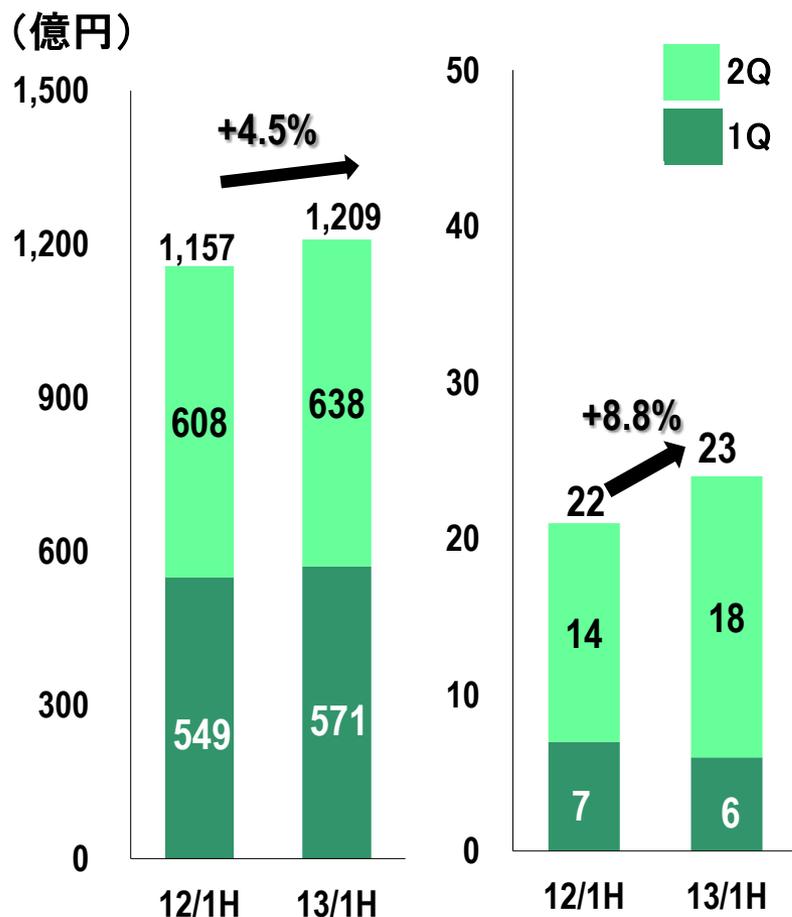
- HOT：新機種投入、レンタル台数を維持
- CPAP：携帯電話網の活用によるモニタリングシステム「ネムリンク」の効果もあり、レンタル台数は着実に伸長
- 米国営業所の統廃合は順調に進捗、収益性の改善を図る

* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

④製品事業：海外での生産・供給体制を拡充

売上高

営業利益



(億円)	12/1H	13/1H	差異	増減率
売上高	1,157	1,209	+52	+4.5%
営業利益	22	23	+2	+8.8%

◆事業概況

繊維素材：

- ・ 日・中・アセアン 各生産拠点の生産・供給体制強化
- ・ 欧米向けファッション・スポーツ用途の輸出販売好調

衣料繊維：

- ・ 海外OEM事業では円安によるコスト増
- ・ 繊維素材部門との連携で独自素材の拡販を推進

産業資材：

- ・ 自動車関連需要は国内外とも順調に推移
- ・ 一般資材(農水産・土木建築関連、不織布等)好調
- ・ インテリア関連、化成品関連は市況低迷継続

2014年3月期 通期業績見通し

(1) 環境認識

グローバル経済は新興国を中心に徐々に減速感強まる — 依然下振れリスク懸念大

GDP成長率

IMFデータ(2013年10月公表)

(単位%)	2011 実績	2012 実績	2013		2014 見通し
			見通し	7月見通し との差	
グローバル	3.9	3.2	2.9	-0.3	3.6
先進国	1.7	1.2	1.2	+0.0	2.0
新興国	6.2	4.9	4.5	-0.5	5.1

— 業界動向 —

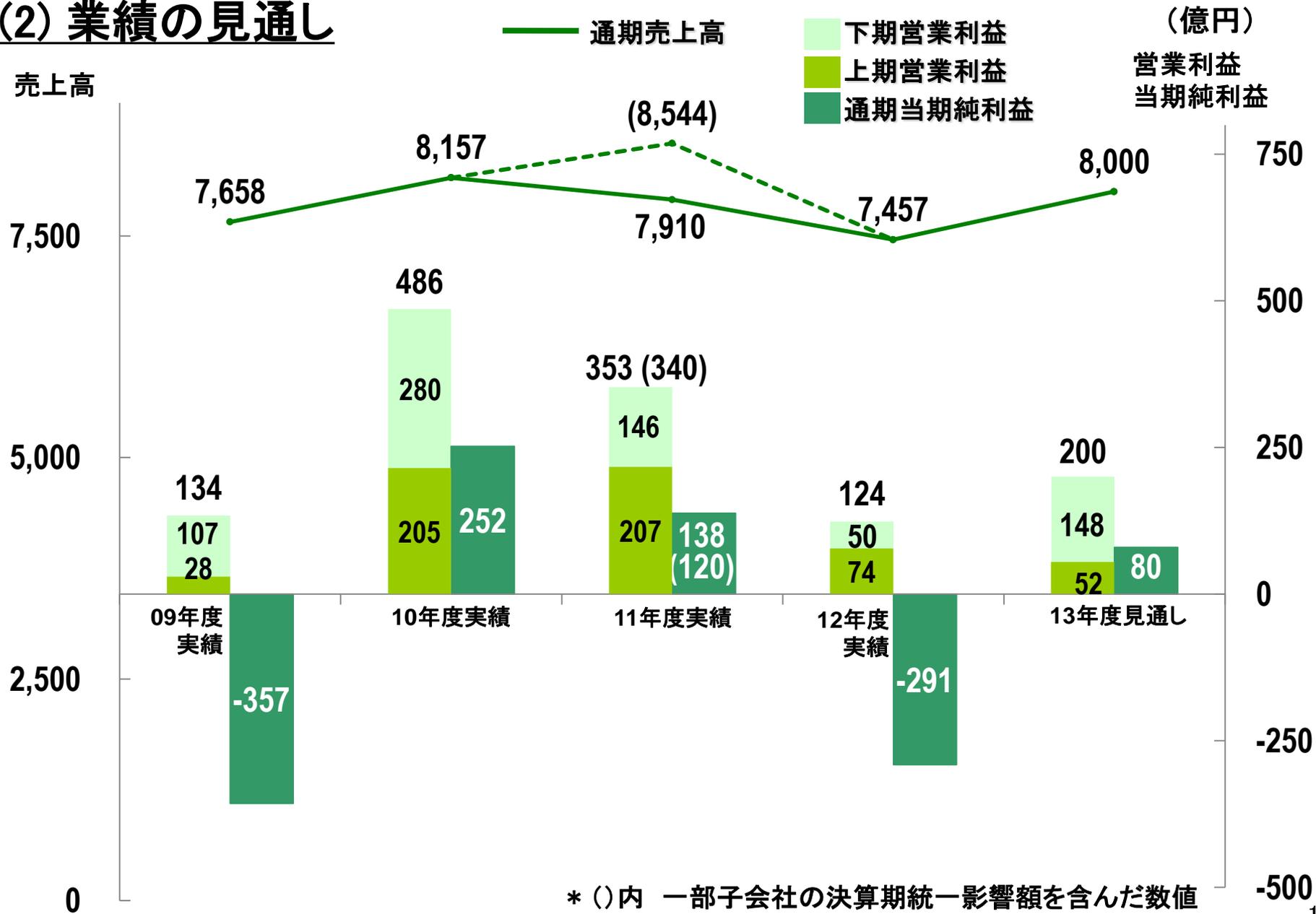
【自動車】

- ・米国は個人消費の回復を背景に力強い回復
- ・欧州は南欧の不調を受け低迷継続、中国・アセアンでも成長率伸び悩み

【エレクトロニクス】

- ・スマホ・タブレットに依存した産業構造強まる ⇔ パソコンはマイナス成長へ
- ・薄型テレビ市場は成熟化 — 先進国はマイナス成長、新興国アジアで伸長も価格下落止まらず
⇒ 2013年は台数増も出荷金額減少へ

(2) 業績の見通し



(3) 通期業績見直しの概況

*2 前回見直しは2013年5月9日に公表

(億円)	12年度	13年度 今回見直し	差異	
			金額	%
売上高	7,457	8,000	+543	+7.3%
営業利益	124	200	+76	+61.8%
<営業利益率>	1.7%	2.5%	—	+0.8%
経常利益	98	180	+82	+83.9%
当期純利益	-291	80	+371	—

13年度 前回見直し*2	前回見直し との差異 (金額)
8,300	-300
250	-50
3.0%	-0.5%
230	-50
80	—

設備投資 *1	363	380	+17	+4.8%
減価償却費	469	450	-19	-4.0%
研究開発費	332	340	+8	+2.5%
FCF	264	0	-264	-100.0%

400	-20
450	—
340	—
-100	+100

*1 設備投資には無形固定資産を含む

■ 中間配当及び期末配当予想

中間配当	2.0円/株
期末配当	2.0円/株の見直し
年間配当	4.0円/株の見直し

■ 2013年度見直し前提

	前回見直し*2	今回見直し
米ドル	96円	99円
ユーロ	126円	130円
原油(Dubai)	100米ドル/バレル	104米ドル/バレル

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移(前年実績対比)

		12年度実績			13年度見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
		(億円)						
売上高	高機能繊維・複合材料	528	584	1,112	584	716	1,300	+188
	電子材料・化成品	884	871	1,755	913	887	1,800	+45
	ヘルスケア	643	740	1,383	648	802	1,450	+67
	製品	1,157	1,215	2,372	1,209	1,341	2,550	+178
	計	3,211	3,411	6,622	3,355	3,745	7,100	+478
	その他	371	464	835	463	437	900	+65
合計		3,583	3,875	7,457	3,818	4,182	8,000	+543
営業利益	高機能繊維・複合材料	3	-50	-47	24	31	55	+102
	電子材料・化成品	15	-34	-19	-27	-23	-50	-31
	ヘルスケア	93	155	248	94	156	250	+2
	製品	22	26	47	23	32	55	+8
	計	132	97	229	114	196	310	+81
	その他	6	37	42	-3	28	25	-17
	消去又は全社	-64	-84	-148	-59	-76	-135	+13
合計		74	50	124	52	148	200	+76

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移(前回見通し対比)

		前回見通し*			今回見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
(億円)								
売上高	高機能繊維・複合材料	600	650	1,250	584	716	1,300	+50
	電子材料・化成品	950	1,000	1,950	913	887	1,800	-150
	ヘルスケア	700	750	1,450	648	802	1,450	—
	製品	1,250	1,350	2,600	1,209	1,341	2,550	-50
	計	3,500	3,750	7,250	3,355	3,745	7,100	-150
	その他	500	550	1,050	463	437	900	-150
合計		4,000	4,300	8,300	3,818	4,182	8,000	-300
営業利益	高機能繊維・複合材料	15	25	40	24	31	55	+15
	電子材料・化成品	-10	15	5	-27	-23	-50	-55
	ヘルスケア	95	155	250	94	156	250	—
	製品	20	30	50	23	32	55	+5
	計	120	225	345	114	196	310	-35
	その他	10	30	40	-3	28	25	-15
	消去又は全社	-65	-70	-135	-59	-76	-135	—
合計		65	185	250	52	148	200	-50

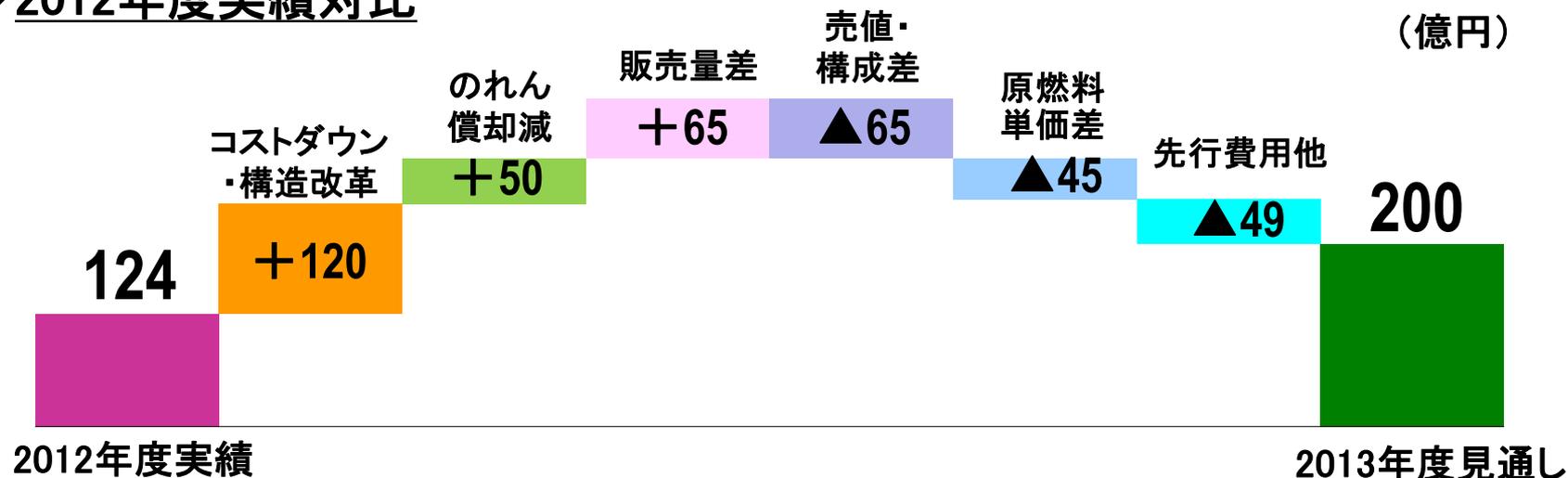
* 前回見通しは2013年8月2日に公表

(4) 営業利益分析(上期 ~ 下期)

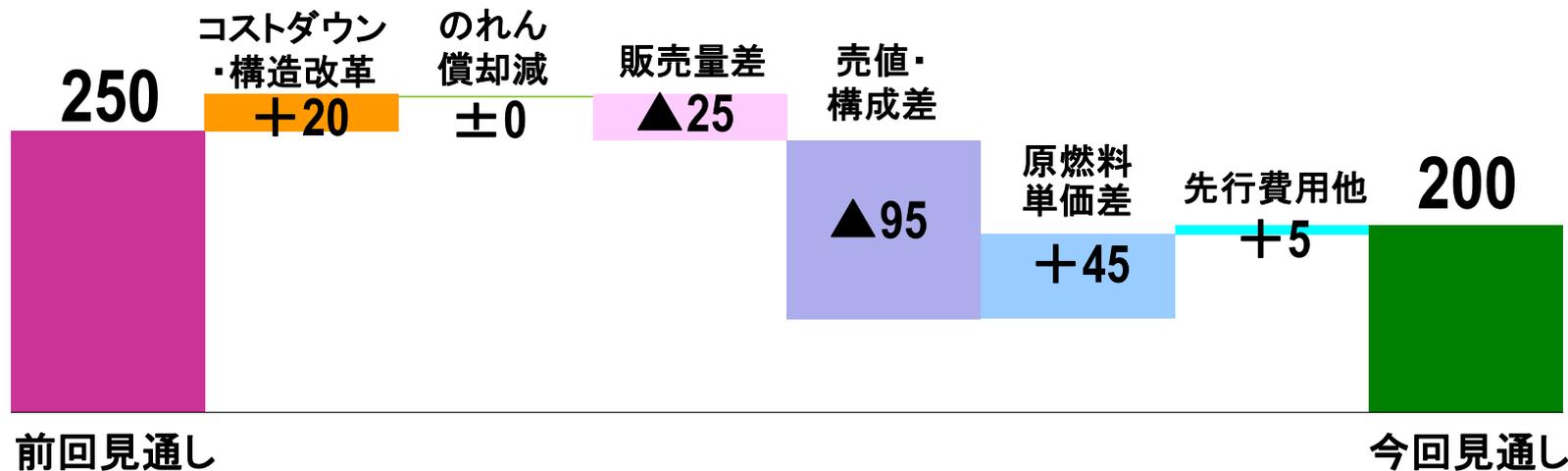
(億円)	上期	下期	上下差	差異理由
高機能繊維 ・複合材料	24	31	+8	【アラミド繊維】固定費圧縮(+5) 他 【炭素繊維】北米リストラ効果(+3) 航空機・圧力容器向け販売等拡大(+4) 他
電子材料・化成品	-27	-23	+3	【樹脂】シンガポール 拠点他 リストラ効果(+4) 他
ヘルスケア	94	156	+63	【医薬】フェブリク国内/海外拡販、季節差等(+40) 【在宅医療】北米在宅医療リストラ効果(+10) 他
製品	23	32	+8	季節要因 [秋冬物ピーク9-11月、春夏物ピーク1-3月]
計	114	196	+82	
その他	-3	28	+32	IT事業 季節差 [検収要因] (+12)、エンジニアリング子会社季節差 (+11)、LiBセパレータ収益改善(+6) 他
消去又は全社	-59	-76	-17	コーポレート費用(-8)[費用発生タイミング、広告宣伝費等]、コーポレート研究費(-5) 熱可塑性CFRP開発等 他
合計	52	148	+96	

(5) 2013年度営業利益見通し増減内訳

◆ 2012年度実績対比



◆ 前回見通し対比



(6) 「収益力回復」に向けた施策**① 事業構造改革の推進**

【効果額：億円】

2013年 フル発現 完了時期

アラミド繊維オランダ拠点 人員削減・生産性向上
管理コスト見直し等による高コスト体質是正

15

30

2013年
12月**炭素繊維**米国拠点一部休止、人員削減
日・独への生産集約・効率化

4

10

2013年
10月**樹脂**シンガポール拠点 一部休止
低採算用途からの撤退、海外営業拠点再編

7

15

2013年
9月**フィルム**アジアでの生産再編・集約を推進
国内生産規模の縮小(⇒中国増強)

4

20

—

在宅医療北米拠点 営業所統廃合と人員削減
地域戦略を最適化、営業拠点数を3/4に

15

25

2013年
12月**コーポレート**本社機構改革
約200名をライン業務等へ配置転換

15

30

～2015年

構造改革効果 合計:

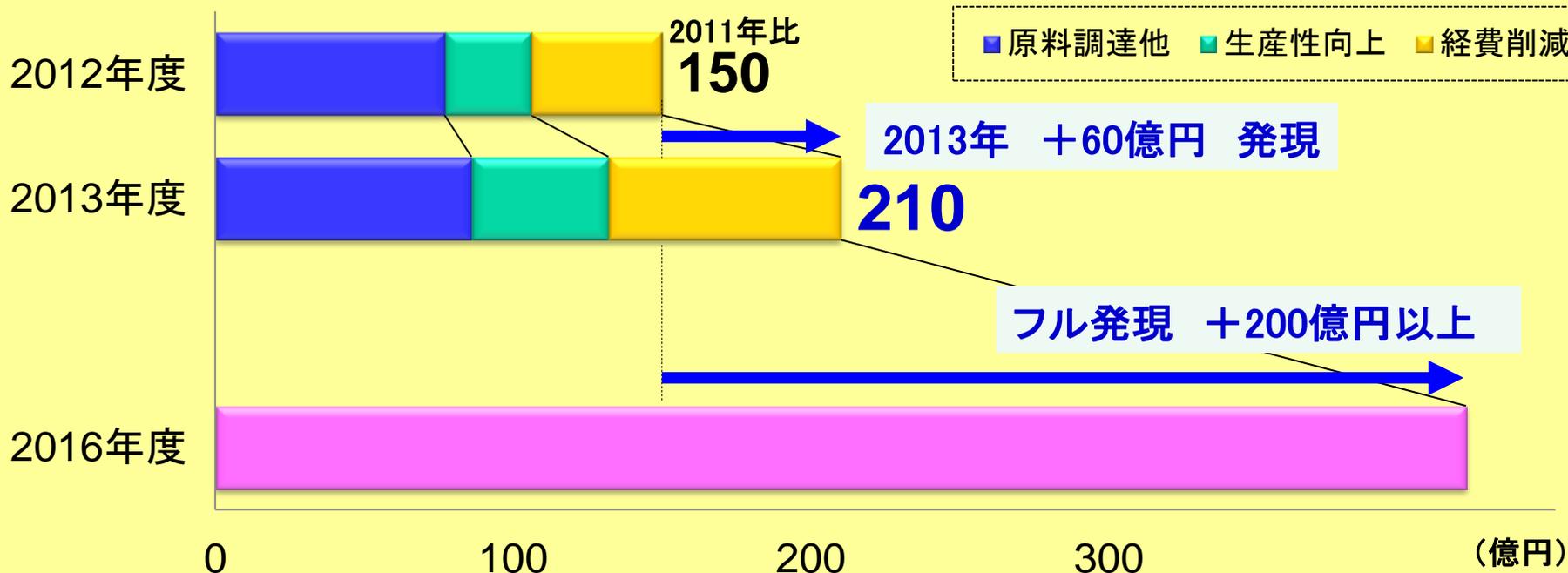
60

130

赤字が継続する拠点には、更に追加対策を検討

② 全社コストダウン活動の継続推進

グループ横断で購買・調達力を発揮、生産現場にもメス



前倒しで効果発現を狙い、更に取り組みを加速

(事業構造改革) + (全社コストダウン) = 120億円について
着実な発現を図る

(第2四半期段階で、進捗率50%程度)

③ 主要事業の営業戦略アクション

事業		アクション
複合材料 高機能繊維	アラミド繊維	<ul style="list-style-type: none"> ・防弾・光ファイバー用途の新興国向け拡販 ・中国の技術サービス拠点のフル活用 ・新規メタアラミド繊維の事業化決定
	炭素繊維・複合材料	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機・圧力容器向けの拡販 ・インド、東南アジアでの用途開発推進 —シンガポール営業拠点設置 ・自動車向け熱可塑性CFRPの開発推進・「Sereebo」ブランド展開
化成材料 電子材料	樹脂	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア地域の新規顧客・用途開拓 —タイ・中国 営業拠点設置 ・欧米等展開加速 —現地営業体制見直し(光学⇒自動車・産業用途等)
	フィルム	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ・タブレット用途販売拡大 (透明導電性フィルム、レンズ用特殊PC) ・新規用途拡大 (インフラ・建築分野(スマート電力部材)等)
ヘルスケア	医薬品	<ul style="list-style-type: none"> ・フェブリクの国内拡販と販売国拡大 ・ボナロン新剤形拡販によるシェア維持
	在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングシステム活用、コールセンター増設による拡大 ・米国の営業所統廃合による運営効率化

(7) 主要経営指標

	09年度 実績	10年度 実績	11年度 実績	12年度 実績	13年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	1.6%	6.1%	4.5%	1.6%	2.6%
ROE：当期利益／自己資本*1	-12.4%	9.1%	4.2%	-10.3%	3.2%
売上高営業利益率	1.8%	6.0%	4.0%	1.7%	2.5%
D/Eレシオ*2	1.18	0.94	0.89	1.00	1.0
自己資本比率	33.0%	37.3%	38.3%	35.6%	35%
1株当たり当期純利益(円)	-36.3	25.6	12.2	-29.6	8.1
1株当たり配当金(円)	2.0	5.0	6.0	4.0	4.0
総資産(億円)	8,231	7,615	7,621	7,624	7,650
有利子負債(億円)	3,203	2,674	2,610	2,708	2,650
EBITDA(億円)*3	753	1,050	863	592	650

*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 「営業利益+減価償却費」にて算出

見直しに関する注意事項と事業等のリスク

見直しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかるとの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

② 製品の品質にかかるとの

ヘルスケア事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 医薬品の研究開発にかかるとの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかるとの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかるとの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2013年11月1日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆ 連結貸借対照表

(億円)	11年 12月末	12年 3月末	12年 6月末	12年 9月末	12年 12月末	13年 3月末	13年 6月末	13年 9月末
資産 合計	7,758	7,621	7,397	7,318	7,800	7,624	7,838	7,668
流動資産	3,756	3,618	3,521	3,507	3,734	3,723	3,725	3,662
固定資産	4,002	4,003	3,877	3,810	4,066	3,901	4,114	4,006
負債・純資産 合計	7,758	7,621	7,397	7,318	7,800	7,624	7,838	7,668
負債	4,697	4,499	4,402	4,330	4,654	4,703	4,889	4,713
(内 有利子負債)	2,850	2,610	2,547	2,523	2,749	2,708	2,877	2,923
純資産	3,060	3,122	2,995	2,988	3,145	2,921	2,949	2,955

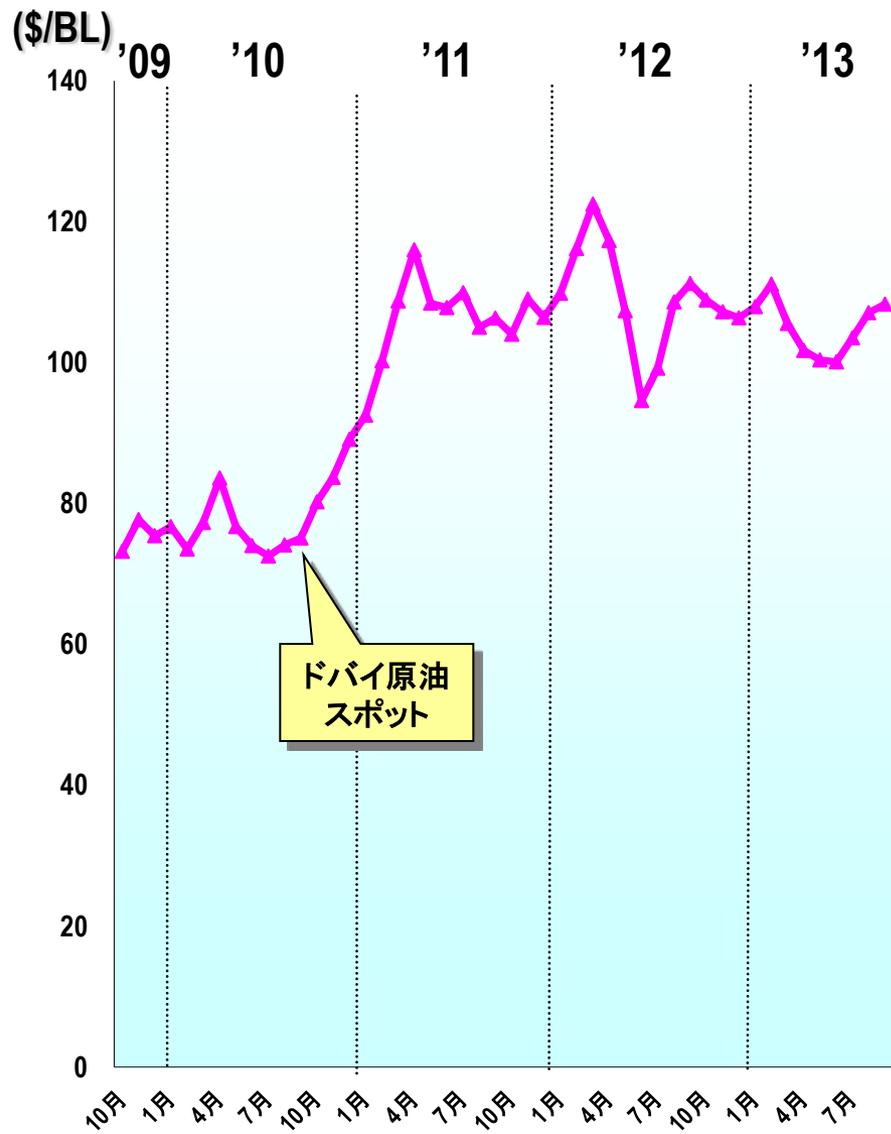
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	12年度				13年度		12年2Q 13年2Q 比較
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
売上高	1,743	1,839	1,848	2,026	1,835	1,983	+144
売上原価	1,275	1,357	1,382	1,538	1,379	1,513	+157
売上総利益	468	483	466	488	456	470	-13
販管費	439	439	438	466	438	436	-2
営業利益	30	44	28	22	18	34	-11
営業外損益	-8	-17	8	-9	-3	-8	+9
（内 金融収支）	-3	-7	-5	-5	-3	-7	-0
（内 持分法投資損益）	4	1	1	-0	-1	4	+3
経常利益	22	27	36	13	16	25	-2
特別損益	-25	16	-8	-303	-3	53	+37
税前利益	-3	43	28	-290	13	78	+35
法人税等	16	30	9	6	11	39	+8
少数株主損益	-2	2	5	4	0	-4	-6
四半期純利益	-16	10	15	-300	2	43	+33

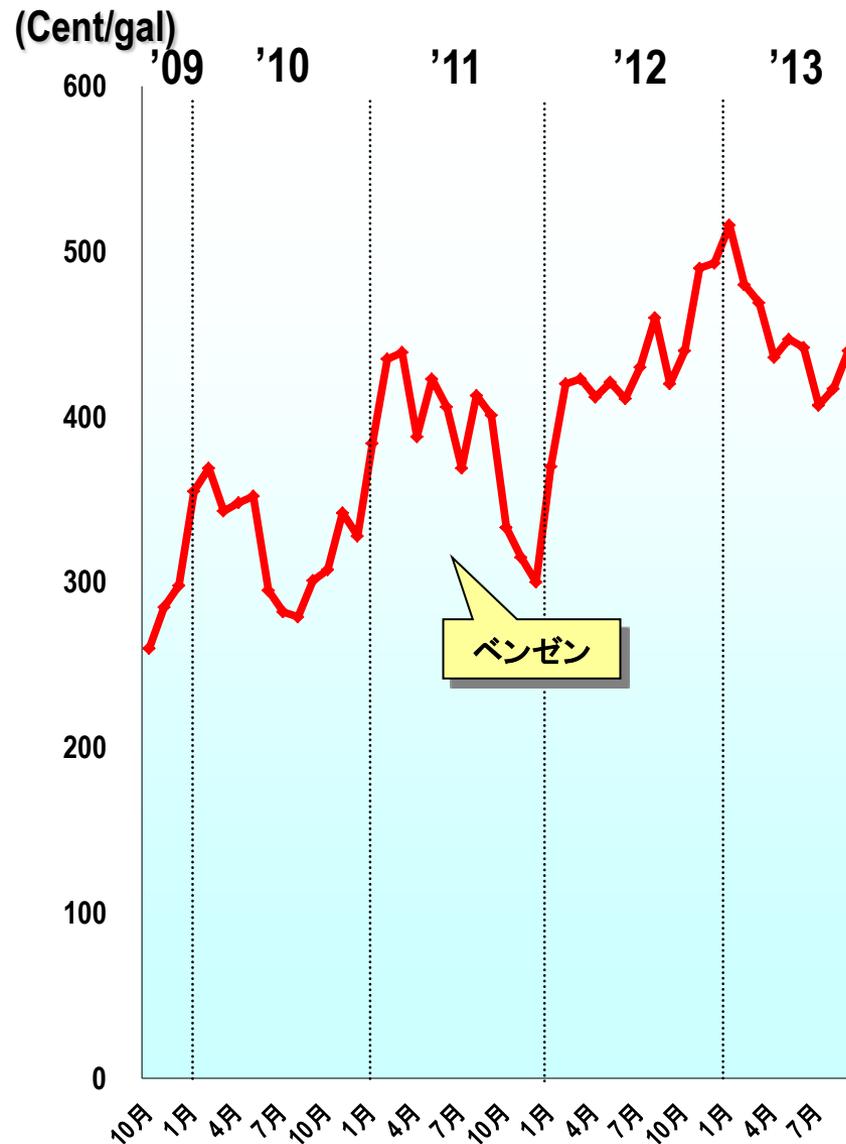
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ ドバイ原油価格推移



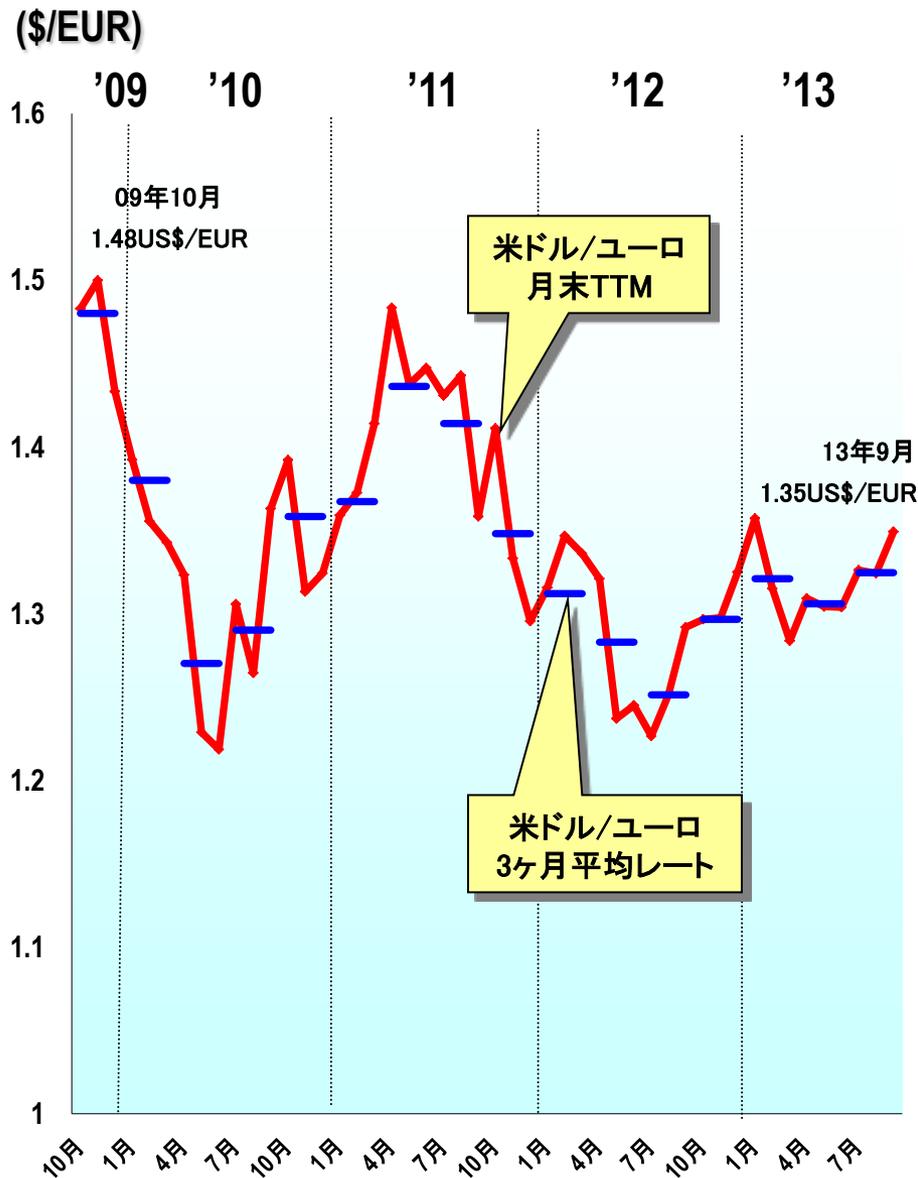
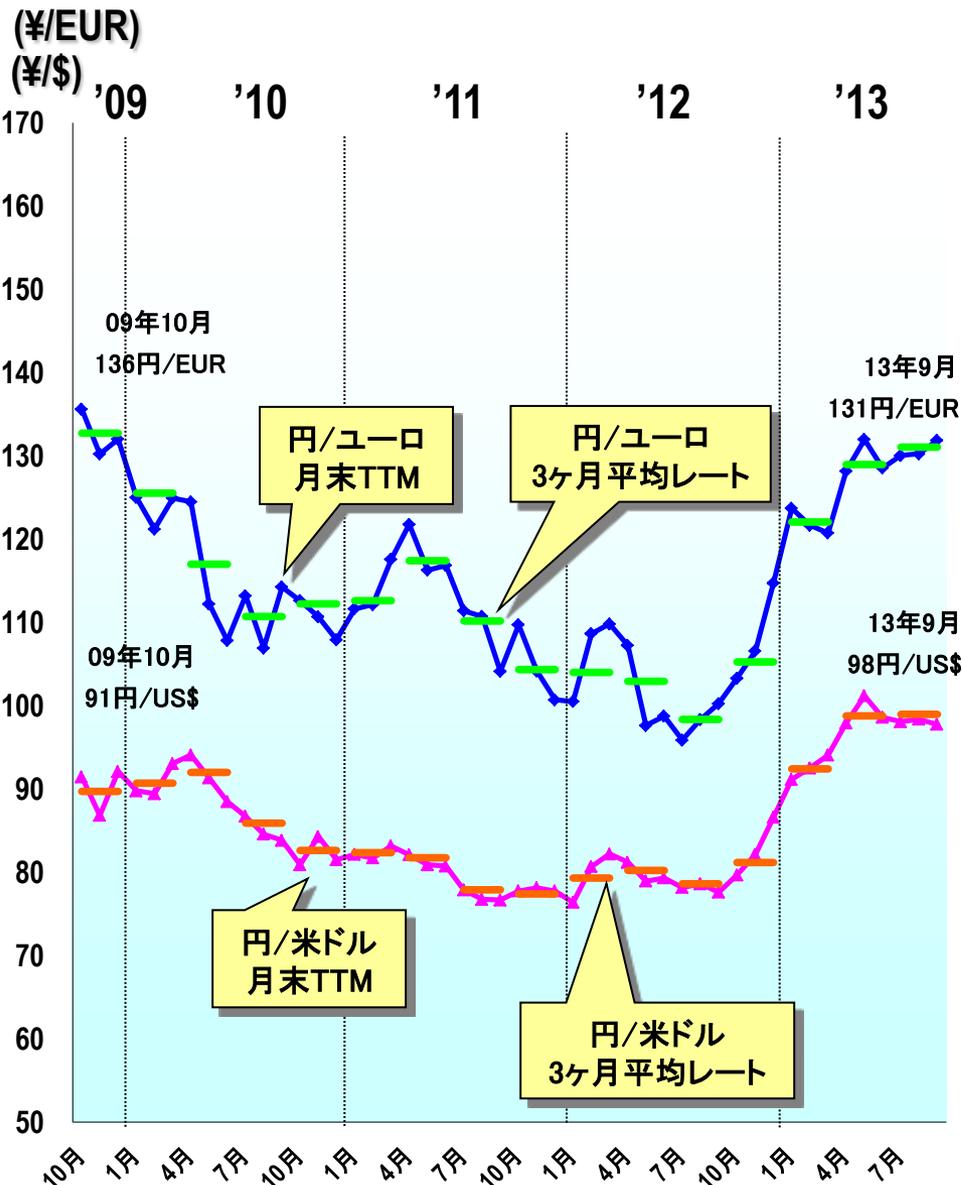
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ ベンゼン価格推移



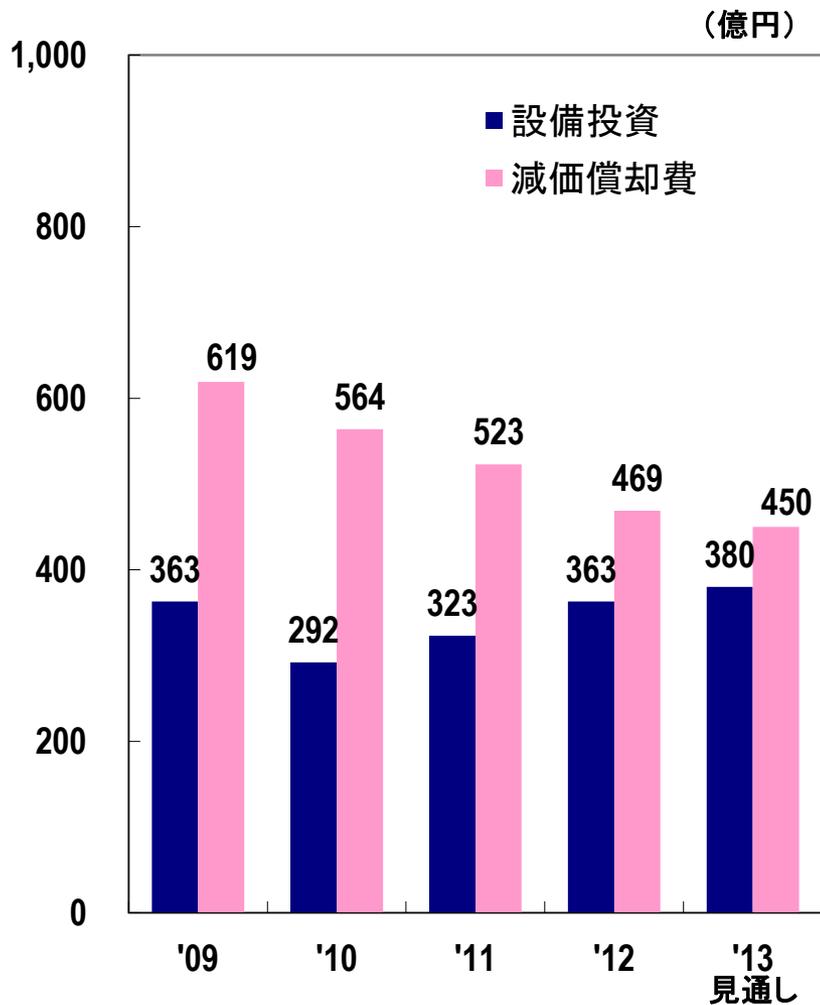
【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆ 円 / 米ドル、円/ユーロ為替レート推移

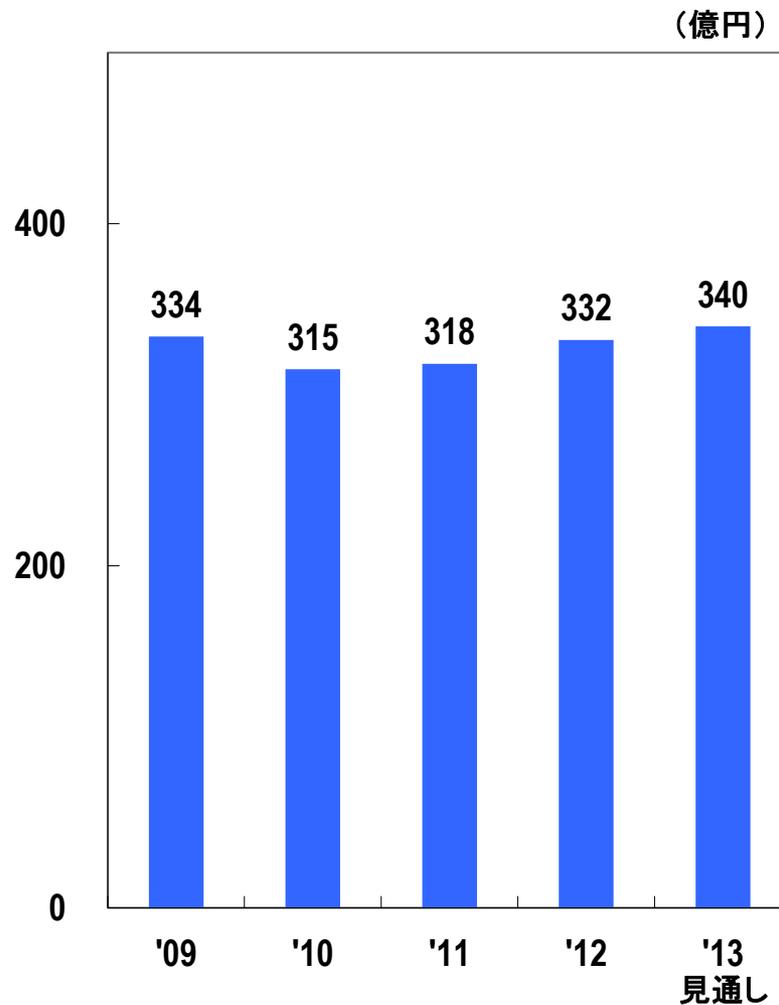


◆ 設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費



◆ 主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	12年度					13年度	
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q
ボナロン®*	骨粗鬆症治療剤	33	40	43	42	159	32	37
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	18	20	21	20	79	15	17
骨粗鬆症治療剤 計		51	60	65	62	238	47	54
ベニロン®	重症感染症治療剤	24	24	27	25	99	22	23
ムコソルバン®	去痰剤	21	19	26	24	90	17	18
フェブリク®	高尿酸血症治療剤	7	12	17	19	55	19	25
ラキソベロン®	緩下剤	10	10	11	10	40	8	9
トライコア®	高脂血症治療剤	4	4	5	5	18	4	4
ボンアルファ®	角化症治療剤	4	3	4	3	14	3	3
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	4	4	13	3	3
サイビスクディスポ®	変形性膝関節症の 疼痛緩和剤	4	3	3	2	12	2	2
スピロペント®	気管支拡張剤	2	2	2	2	9	2	2

* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2013年9月末現在)

* 承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域		ITM-058 KTP-001			GTH-42J [ボナロン®]
呼吸器 領域	NA872ET [ムコソルバン] PTR-36*				
代謝・ 循環器領域	TMG-123		TMX-67 [フェブリク] (中国)		ITM-014 [ソマチュリン®]
その他		GGs [ベニロン] (適応追加: 顕微鏡的多発血管炎)	GGs [ベニロン] (適応追加: 視神経炎)		

* PTR-36は2013年6月にPhase I 段階へ移行

◆ 新規上市医薬品 (2013年9月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ソマチュリン® 皮下注 (ランレオチド酢酸塩)	先端巨大症 下垂体性巨人症	先端巨大症及び下垂体性巨人症における過剰な成長ホルモンの分泌を抑制する薬剤。 徐放性と持続的な薬効発現を可能とする製剤処方とプレフィルドシリンジの採用によって、現行の治療薬と比べて利便性とコンプライアンスの向上が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社 2013年1月17日に国内販売開始
ボナロン® 経口ゼリー35mg (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)のゼリー剤。 骨粗鬆症領域の治療薬として世界初のゼリー製剤。 良好な食道通過性と型崩れしない適度な硬さを有し、錠剤を好まない骨粗鬆症患者に選択肢を提供できるほか、高齢者に取扱いやすいことが期待される。	ゼリー	導入: 米メルク社 2013年3月12日に国内販売開始

ボナロン® / Bonalon® は Merck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

ソマチュリン® は Ipsen Pharma, Paris, France の登録商標です。

◆ 新規開発医薬品 (2013年9月末現在)

【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGG (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
TMX-67 (フェブキソスタット)	痛風・高尿酸血症	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかつた患者へも使用が可能であり、中国における痛風・高尿酸血症治療の新たな選択肢として、痛風・高尿酸血症患者のQOL(Quality of Life)向上に貢献できることが期待される。	錠剤	共同開発:アステラス 中国 (中国)

【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGS (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入:仏イプセン社
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素(マトリックスメタロプロテアーゼ)と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者:波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発:化血研

【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NA872ET (アンブロキシール塩酸塩)	去痰	既に販売している去痰剤アンブロキシール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	徐放錠	導入:独ベーリンガー・インゲルハイム社
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序(肝優位型GK活性化作用)による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性(1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等)が期待される。	錠剤	
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序(CRTh2拮抗作用)によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果(軽症患者)や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果(軽症~重症の患者)が期待される。	錠剤	導入:英プルマジェン・セラピューティクス(アズマ)リミテッド社

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。